

令和6年度 特色ある学校づくり推進事業 計画書

学校番号	42	豊田市立	浄水小	学校	代表	成瀬 真弓
------	----	------	-----	----	----	-------

※分野【a : 国際交流・国際理解、b : 地域連携、c : 自然体験、d : 環境教育、e : 学力向上、f : 交流体験、g : 福祉・ボランティア、h : 伝統文化、i:その他（ ）】から選ぶ。

テーマ	共感・共生する心を育み、生き方を学ぶ体験的活動 サブテーマ ～縦割り異学年の交流と豊田特別支援学校との交流活動を中心に～	分野	f	交流体験
学校づくりの視点（ねらい）	一人一人の児童が、互いの個性や違いを認め合い、高めえる人間関係づくりを目指し、心の教育と高め合う集団づくりの充実を図る。 全校で縦割り(わくわく)班を編制し、異年齢集団での遊びや行事などを通して、共に助け合い学び合う人間関係作りに努める。また、学区にある豊田特別支援学校と交流し、障がいのある友達と交流体験を重ね、相手を正しく理解し、問題を解決する工夫をする中で共生の心を培う。また、活動を振り返ることで、自分自身を見つめ、共に伸びていく気持ちをもたせていく。 これらの活動を支える基盤として、いじめや不登校児童を出さないために、相談活動を充実させ、早期発見・早期対応とともに継続した支援を行う。さらに、児童が安心して落ち着いた学校生活を送れるよう、校内の環境整備を整えたり、学生ボランティアを活用して個に寄り添った支援ができるようにしたりする。また、交流活動の様子をホームページ等で保護者や地域に広く紹介する。	(その他)は分野を右欄に記入		
活動内容・計画	○豊田特別支援学校との交流(にこにこ交流) 全学年が、年間1～2回、6年間を通じて、豊田特別支援学校の同学年の児童と継続して交流する。障がいを正しく理解し、一緒に楽しむための活動を工夫したり実践したりする。ICT機器を利用してビデオレターの交換やテレビ会議での交流を行うとともに、代表児童が支援学校を直接訪問し交流ができる機会を増やしていく。 ○縦割り異学年交流(わくわく班活動) 年間7回実施（5、7、9、10、11、12、2月）縦割り遊びや6年生を送る会を行う。 高学年はリーダーとして低学年をいたわり、活動の計画を立て実施する。低学年は上級生のすばらしさを実感し、感謝の気持ちをもつ。 ○相談活動の充実 ・学習用タブレット「せんせいといいしょのはなし」➡悩みを抱えた児童が、いつでも学習用タブレットを通して相談したいことを教師に伝えることができる仕組をついている。 ・教育相談「あのねタイム」➡前期・後期の2回、学級担任が児童との個別面談を行い、児童への理解を深め、自己実現や問題解決の支援を行う。 ・心の相談員による相談活動➡「あのねルーム」に来室する子の様子から心配な児童に気付いたり、相談を受けることにより小さな問題にも気付いたりすることから早期対応につなげる。 ・校内はあとラウンジ「はあとルーム」➡不登校児童の学びを保障するために心の相談員や校務支援員を活用して運用していく。 ・学生ボランティアの活用➡個別の支援が必要な児童の見守りを充実させ、児童が落ち着いた学校生活を送れるようにサポートする。 ○校内環境整備 校舎内外の安全で気持ちのよい環境を作るために、校務主任・公務手・校内整備員を中心に、教員・ボランティア・児童が協力して清掃活動等に取り組む。			
補助員配置	・校内整備員			
実績・期待される効果	・特別支援学校との交流では、低学年では障がいを理解できなかったり、助けてあげるという意識で接したりする子どもが多いが、高学年になるにつれ、障がいを理解し、一緒に楽しむ共生の気持ちが育つ。 ・縦割り班活動では、高学年が低学年を自然に思いやり、下学年は親しみをもって高学年に接するようになる。 ・子どもたちの成長を、学校公開日、学校便り、学校ホームページ等を通じて保護者や地域へ発信し、地域ぐるみで子どもを育てる。			
検証方法	・交流活動、わくわく活動の後の児童の振り返りから、共生の心や生き方を学ぶことができたかどうかを検証する。 ・日頃の生活や、校内での活動における態度等を観察し、思いやりの心をもって活動できているか検証する。			